

# 令和元年度自己評価公表シート

令和2年3月31日  
学校法人 玄海学園  
貝塚幼稚園  
園長 庄司 誠

## 1、本園の教育目標

○総目標 ひかりのこども

○教育目標

- ①心身共に健やかなで明るくのびのびした子ども
- ②友達と仲良く遊べる子ども
- ③情操豊かで素直な子ども
- ④よく考え根気強く最後までがんばる子ども
- ⑤ありがとう、ごめんなさいが出来る子ども

○教育方針

強く・正しく・やさしく・愛らしく・やる気・元気・根気を育てる教育

以上の教育目標を掲げ、幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保し、遊びを通して周りの世界に興味をもち、探索し思考する過程を大切にしたい教育を目指している。また、幼児期にふさわしい生活が展開されるように、教師との信頼関係に支えられた生活、興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活、友達と充分にかかわって展開する生活がなされるように配慮し、逞しくそしてしなやかな心と体を持った21世紀の日本を支える人間力を身に着けた子どもを育てていく。

## 2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

課 題	具体に取り組むべき内容
五感に働きかけた保育の充実	9年間にわたるアイランドシティへの園外保育から得られた成果を踏まえ、また子ども環境管理士である森田先生との連携を生かし、今後も継続し幼児が自然とのかかわりを深めることができるよう更なる工夫・検討・実施を行い保育の質向上に努めていく。
食育への取組	10年間の食育活動の成果を踏まえ、PDCAサイクルを通じた質の向上を行っていく。また NPO 法人食育推進ネットワークとの連携を通して、本園「食育」の更なる社会的周知を実現していく。
CSR 事業部門からの園のブランディング化	沢山の資格や能力を持った教員の外部派遣を通して園の更なるブランディング化を図っていく。
保育研究の実施	教職員の研鑽を高めるために保育学会への参加、発表を考、県教育課程での研究発表を考えていきたい。
教育の充実を図る	沢山の個性を持った子どもたちに対応し、インクルーシブ保育の実践を行うことにより、きめ細かい配慮が出来る環境を整える。
園環境の整備	ナーサリーの給食調理室の整備に伴い幼稚園のみそ汁計画や預かり保育のおやつ計画を見直し、子どもたちに安心・安全な食の提供の充実を図っていく。
園業務の効率化	新たな時代へ突入するにあたりマンパワーの有効活用も含め、園業務の改革、効率化を図り、労働時間の短縮実現を最優先課題とする。

### 3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
五感に働きかけた保育の充実	アイランドシティへの園外保育の実施は年長 12 回、年中 12 回、年少 11 回とほぼ毎月 1 回実施することができ、その時期その時期の植物、草花、生き物に触れ、五感をフルに使うことで自然環境に親しみ、沢山の感動体験を行って参りました。毎回違う表情を見せる自然に対して好奇心を操られ心も体も解放され、主体的に外界に関わっていく姿、野を駆け回ったり、芝を転げ回ったりする姿は解放感に満ち溢れ子どもたちはとてもいい表情をしていた。また、池の中を散策し沢山の生き物と触れ合う機会を通し、命の大切さ尊さを大いに感じていた。このような活動計画を入れることで環境を生かした保育の質向上が図れた。特に本年度も年長組や年中組の子どもたちが辞典を持って生き物を調べたり、関心を寄せたり、園に生き物を連れて帰り、教師と一緒に育てていくことで命の大切さをより鮮明に体験したと思う。
食育への取組	10 年間の食育活動の成果、令和元年度食育担当教諭大友先生の産休・育休を踏まえ栄養士を 1 名採用、クラス担任との情報共有の時間を設け、新たな年間指導計画の見直し作成を行い、5 歳、4 歳、3 歳の発達段階に合わせた食育活動を実施する事ができた。本年度も PDCA サイクルによる保育の質向上を図ったおかげで年度末の保護者アンケートから目に見える成果をあげることができた。2 ヶ月に 1 度のお誕生会では栄養士より「食」に関する話題を子どもたちに提供することによりより一層の理解を子どもたちに行うことができた。また、食育担当教諭の「食育ブログ」を通して保護者への発信、地域の方々への発信により当園の取組に対する理解も深めることができたと思う。栄養士を新たに採用したことで大友先生が産休・育休に入った後も保護者の方々に対する食育活動の機会「まあまあずルーム」を実施し食に関して親が学ぶ機会を続けることができた。また食育参観の実施は新型コロナウイルス感染症の影響の為、年 3 回から 2 回となったが、その限られた回数で理解を深めていくことが出来たと思う。また当園のフードコーチングスーパーバイザー大友先生が東区公民館での講師依頼を受けていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で実施が中止になったことは残念であった。
CSR 事業部門からの園のブランディング化	昨年度より CSR 事業部門を立上げ、園のブランディング強化を行い、昨年に引き続き福岡タワーでのクリスマスイルミネーション点灯式での演奏依頼を受け演奏。また食育担当教諭大友先生が東区公民館での食育講師依頼を受けたことは、園のブランディングの強化を行うことができた。
保育研究の実施	昨年夏に行われた福岡県教育課程研究協議会での副主任森田先生による「カリキュラム・マネジメント」に関する発表を通し、中央教育審議会でのカリマネに関する発表依頼を県協会から受け、園長自らが全国で発表を行った。こうした発表を通して発表者本人の専門性を高められただけでなく、間接的に教職員一人ひとりに更なる研鑽を行う結果をもたらしたと感じている。
教育環境の充実を図る	沢山の個性を持った子どもたちに対応し、インクルーシブ保育の実践、きめ細かい配慮が出来る環境を整えるために、補助教諭の配置に配慮した。年度途中で妊娠・結婚そして退職する教諭が出てしまったが、パートの先生を増員し、何とかカバーすることができたと思う。
園舎環境の整備	ナーサリーの給食調理室の整備に伴い幼稚園のみそ汁計画や預かり保育のおやつ計画見直しを行い、みそ汁等の回数を増やすこと、また、預かり保育の充実したおやつ作りを実現することができた。また安心・安全な食材を使うことにより安全な食の提供を実現することができた。
園業務の効率化	マンパワーの有効活用も含め、園業務の変革、効率化を図り、労働時間の短縮実現を最優先課題とし、結果、少しずつであるが労働時間の短縮、教職員一人ひとり年 5 日以上の有給取得が実現できた。

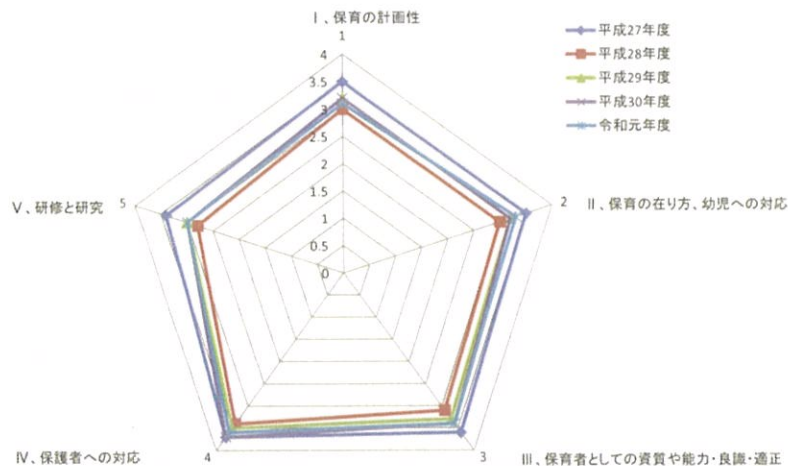
#### 4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

取り組むべき課題について、4月当初に園長作成の平成31年度(令和元年度)事業方針「Let's make the future together」を全職員で確認、職員全員に本年度取り組むべき課題や方向性を示し取り組んできた。職員一人ひとりの自己評価も踏まえ取組状況を話し合うことを通して、本園としての方針を明確にすることができ、それを具体的に実践する礎とすることができた。

#### 5、今後の取り組むべき課題

課 題	具体に取り組むべき内容
五感に働きかけた保育の充実	10年間にわたるアイランドシティへの園外保育から得られた成果を踏まえ、また子ども環境管理士である森田先生との連携を生かし、今後も継続、幼児が自然とのかかわりを深めることができるよう更なる工夫・検討・実施を行い保育の質向上に努めていく。
食育への取組	11年間の食育活動の成果を踏まえ、PDCAサイクルを通じた質の向上を行っていく。またNPO法人食育推進ネットワークとの連携を通して、本園「食育」の更なる社会的周知を実現していく。
CSR 事業部門からのエンブレディング化	沢山の資格や能力を持った教員の外部派遣を通して園の更なるブランディング化を図っていく。
保育研究の実施	教職員の研鑽を高めるために保育学会への参加、発表を考えていきたい。また全日本私立幼稚園連合会主催の研究大会への教諭参加を図ってきたい。
教育環境の充実を図る	沢山の個性を持った子どもたちに対応し、インクルーシブ保育の実践を行うことにより、きめ細かい配慮が出来る環境を整える為に正職教員の増員を行う。
園環境の整備	通園バスの更なる安全運行のために大型バスにドライブレコーダーの設置、新型コロナウイルス感染症等の具体的な対策として全クラス保育室に「医療用物質生成器」の設置を行っていく。
園業務の効率化	教員の増員を行うことにより、マンパワーの有効活用も含め、園業務の変革、効率化を図り、労働時間の短縮実現を本年度も課題とする。
カリキュラム・マネジメントの見直し	一昨年度からの新幼稚園教育要領に沿い、保育内容の大幅な見直しを行いカリキュラムの再編成を行い実施することを重点目標と考えたい。

#### 6、教職員の自己評価集計

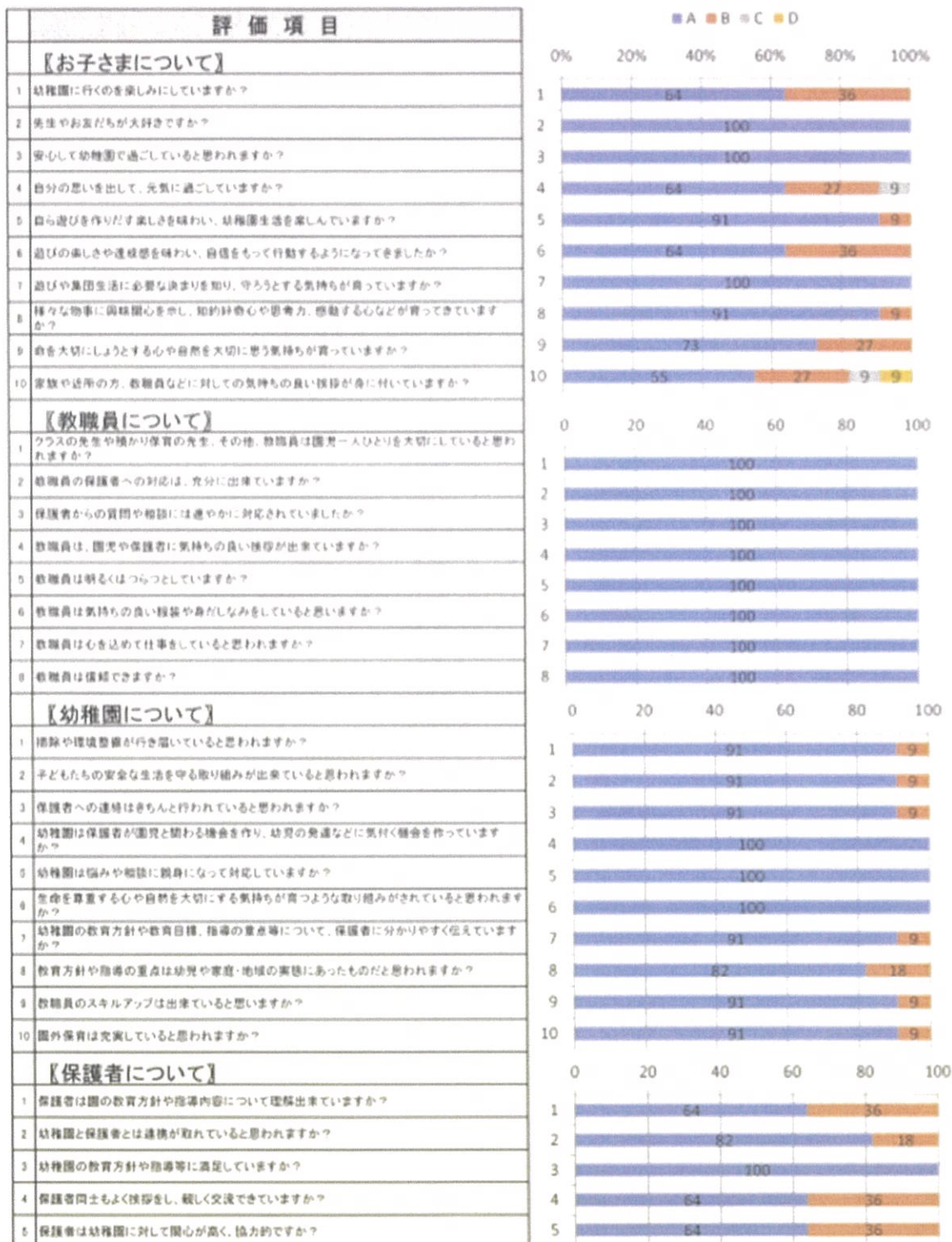


## 7、学校関係者の評価

### 令和元年度 教育や運営に対するアンケート集計結果

対象者…令和元年度 母の会役員の方々

A: 十分達成されている B: ほぼ達成されている C: 取り組まれているが成果が十分ではない D: 取り組みが不十分である



## 8、財務状況

公認会計士監査により、適切に運営されていることが認められている。